

おかげ
さまで

日之影新聞

第1号



夏
休
み

ひ
の
か
げ

自然でがんがん遊ぶのが 子ども時代の宿題です

「森に入っちゃいけないよ」とか
「川で遊んじやいけないよ」とか、
そんなルール、ちよつとわすれて。
今日は、ぼくらの町のどっかい自然
が学校で、ゆたかな森や風や川が
教室です。ぼくらはこのセンセ
イたちから「森でしっかり遊んでこ
らん」「川に真剣に遊んでこらん」つ
て教えてもらいました。それは、
ふだんとはちがう、今日だけのスベ
シヤルです。ぼくらは、山の奥まで
探検してクワガタやカブトを捕り
たいし、川をじっくり観察してさか

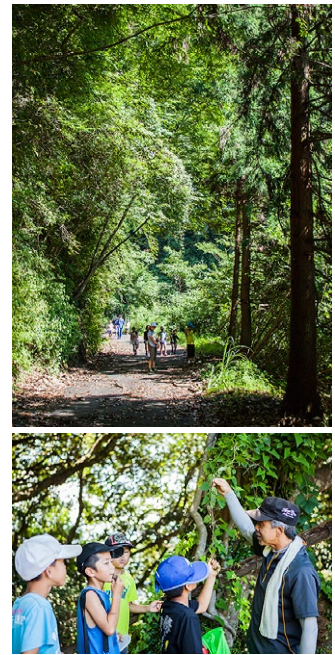
なを捕まえたりしたいです。自然
でどうやって遊ぶのかはよくわか
らないけど、「くわくわくするし、
じぶんで手づくりピザを作って食べ
るのもすごく楽しみです。夏のあ
いだの、たった一日だけの「やまじゅ
うの山学校」で、とにかくいっぱい
遊びます。遊ぶのが勉強です。遊
ぶのがルールです。この日之影の町
の自然で遊ぶことが、ぼくらにと
もの、子ども時代の宿題なんです。
さあ、しっかりと、いっしょうけんめ
いがんばります！



「やまじゅう」のセンセイは自然遊びの達人でした

「やまじゅう」は、この山の学校がひらかれる追川集落の地名「山中」からとった名前です。代表の戸高さんは「お年寄りばかりになつてしまった集落をげんきにしたい。こどもたちに追川のゆたかな自然でたくさん遊んでほしい」という気もちから「やまじゅうふれあいくらぶ」をつくりました。

みんなが集まれる建物を建てたり、春には山菜で春祭りや秋には紅葉を楽しむ秋祭りをはじめました。夏の1日、こどもたちの自然遊びの学校も開くようになりました。どんな、参加することも増えていきます。こしは36人。4つある日之影の小学校から集まりました。みんな学年も学校もちがうけど、だからこそいつもとはちがうドキドキがあります。戸高さんや集落のおじさんたちがセンセイです。戸高さんはこどものころ、10キロの道のりを歩いて学校に通ったそうです。だから、森も川もぜんぶ通学路。どこにどんな自然があつてどんな生き物がいてどんなふうに見えるのか知ってます。センセイたちは「学校では習わんこと。じぶんで体験せんとわからんことを学んでほしい」と言っていました。



上：90%以上が森林という豊かな町の自然が、こどもたちの学校になる。／下：「やまじゅう」のセンセイは、木のこと葉っぱのこといろいろ教えてくれた。

午前中は山遊び。ニレの木の周りでクワガタを探しました。ミヤマを見つけた子もいて羨ましかったです。お昼には、ピザの生地をじぶんの手でこねました。けっこう柔らかくているんなカタチにできるから、丸めて「うんこみたーい」って笑つてる子もいました。生地を広げて、トマトやチーズや野菜を好きなだけ乗せました。じぶんのピザを作つて焼いて食べたらすごくおいしくてびっくりしました。午後からは川に行きました。追川という川の中流です。水が透明で川の底まで見えました。男の子たちは「魚はおらんじやろか」と言つて川をのぞきこんで「あ、あそこ、おるおる、なにかがおる！」と叫んでました。センセイから注意事項を聞いてから、ぼくらみんな

川に入りました。「つめたーい！」「キヤー」って声があがりました。みんなの水中眼鏡が反射してキラキラしました。カラダをぜんぶ水中につけたり、水をかけあつたり、川の中の生き物を探し出したり、泳ぎ出したり、もぐりはじめたり、みんなが勝手に遊びはじめました。みんなが川底を歩くと、水面はすこしにこりました。センセイたちは、サカナのことを教えてくれたり、笹ぶねのつくりかたを教えてくださいました。ぼくらは夕方ちかくまでずっと川で遊びました。川で遊ぶことが楽しいことを知りました。川で遊んだあとにはものすごく腹ペこになることを知りました。みんな、おにぎりをべろっと食べて、おかわりまでしてました。

川に潜って遊んだらモーレッツ腹ペこでした



右上：ピザ生地がまとわりつく感触も楽しいひのかけ少女。／左上：ピザの焼き具合をじっと見つめるひのかけ少女。／右下：じぶんのピザの出来ばえにグッとテンションがあがるひのかけ少年。／左下：流れてこない流しそうめんを待つひのかけ少年。



右：子どもたちがとびはねるたびに川はキラキラきらめいた。／左上：水中メガネがかっこいいひのかげ少年。／左中：つかまえたらとにかく見せにくるひのかげ少年。／左下：おにぎりに必死に手を伸ばしてくる腹ペコひのかげ少年少女。

子どもも、じじばばも、 夏休みは永遠不滅です

ぼくらは、じぶんたちのふるさとの自然のなかで遊んで遊んでくたくたになりました。川の水のつめたさとか、足のうらが川の底の石にふれた感じとか、こもればのあったかさとか、いろいろいっぱい感じました。自然のなかではセンチたちも子どもみたいでした。ぼくらはみんな日之影の自然のなかのこどもでした。大きくなるとこどもは小さかったころのことをいろいろ忘れず。学校で習ったことも忘れるか

もしれません。でも「やまじゅう」の学校で体験した日之影の川のつめたさやこもればのあったかさは、頭につめこんだことではなく、カラダに刻みこんだこと。これから先、ずっとずっと大きくなってからも、30度の気温を超えた暑い暑い夏のとある日に日之影の川のなかで見たらさらさらとした景色を、ずっと忘れず、ぼくらみんな思い出せたらいいなあと思います。ぼくらの日之影の夏休み、ずっとずっと永遠に。



インフォメーション 「やまじゅうふれあいくらぶ」

日之影町役場から車で約30分ほどの場所にある追川集落に暮らすおとなたちが中心となって、集落とまちを元気にするために結成した。山育ちゆえの知恵や自然への深い造詣を生かしながら、じぶんたちの手で交流施設を建設し、そこを拠点として春には山菜を楽しむ「春祭り」、夏には子どもたち向けの「山学校」、秋には紅葉を楽しむ「秋祭り」を開催している。Facebookページは「ひのかげ・やまじゅう便り」で検索を。



左：くらぶの代表の戸高建一さん。／中：交流センターを集落のみんなで作ったときの記録写真。／右：ちがう学校、ちがう学年のみんなとも仲良くなれた。

使えるかなこの

日之影



方言教室

なえたなあ〜。

方言教室が出来るのかい？

私は標準語で物言いよるつもりやね〜。普段かり、そんげ方言は使わんとよね〜。

困ったな。方言教室ができるかな？私は標準語で話しているつもりなのよ。普段から、あまり方言は使っていないよ。

げつちよる

混ぜている(用例)こん犬は、秋田犬と柴犬がげつちよるばい。

やかめる

片付ける(用例)大事なものはちゃんとやかめる。

てにやわん

しようがない(用例)間に合わんなら、てにやわんよ〜。

あんどした

あきた(用例)同じ事んじようして、あんどした。

骨折りがける

ご苦労をかける(用例)皆様に、骨折りがけますが、よろしくお願ひします。

講師：日之影町役場 甲斐賀奈子
私は、根っからの日之影人。毎日、方言で町民のみなさまと会話をしています。

お料理

左近の逸品

天然鮎の塩焼き

日之影では6月から鮎漁が解禁となる。左近のおやじさんは自ら釣った魚を提供してくれる。生きた状態のまま店舗まで運び込んだ鮎は、水につけて締める。8月上旬の鮎は25cmほどもある大きさに食べ応えも十分。ほろほろの身と爽やかな香りが実に美味。

天然鮎のせごし

釣りたて、締めたての鮎を薄切りの刺身にしたり「鮎のせごし」。鮮度のよさがそのままうまさ。川のそばに生きる人たちだからこそ味わえる御馳走。せごしは「背越し」。輪切りの薄切り。鮎の刺身を骨ごと楽しめる。こりこりとした食感、みずみずしくさっぱりした味わい。

みょうがの味噌炒め

日之影町の地元では定番の「みょうがの味噌炒め」。秋みょうがは、8月盆過ぎ頃から庭先に出る。豚肉とみょうがの細ぎりを味噌で炒めたこの料理は、しゃきしゃきとさっぱりとした爽やかなみょうがの風味と食感がじつに素晴らしい。



居酒屋・左近
宮崎県西臼杵郡日之影町七折
318711
17時〜(不定休) ※要予約
098218713180

3年目の「ヒノカフェ」

イベント

日之影町の“未来”について、もっとみんなで考え、語り合おう!と、2015年よりスタートした「ヒノカフェ」。子どもからお年寄りまで町内外から幅広い人が集まり、定期的にワークショップを開催してきました。そんな「ヒノカフェ」も3年目。今年からは、みんなの想いを具体的な動きに変えていくための活動がはじまっています。この町で起業した人、コミュニティを作っている人、ものづくりをしている人……ヒノカフェメンバーの中から数人が集まり、日之影の未来を、自分たちで創っていくために動き出しました。去る7月には、メンバーが東京へ行き、さまざまなコミュニティスペースや施設をめぐるリサーチのツアーも開催。また新たなチャレンジをはじめた「ヒノカフェ」の動きを、今後もお伝えしていきます!

活動報告

集落支援員が行く!

みなさんこんにちは、集落支援員の佐藤文昭です。私は、集落の問題や要望を聞き取り、集落と行政のパイプ役になるとともに、集落と一緒に問題の解決や、活性化の助けをする仕事をしています。例えば、縦木尾集落の空家の外風呂を解体して「露天五右衛門風呂」を作った時は、集落のHさんの発案を集落、支援員、役場などが協力して作り上げました。また、今年の春には、見立地区のKさんの梅畑で小学生親子を対象にした「梅ちぎり体験」を行い、梅ちぎりや、シロップ作り等を体験してもらいました。今秋には「ゆずちぎり体験」を予定しています!行政主導になり過ぎず、集落主体の取組を支援し、集落の特性を活かしたイベントを開催することで、より多くの人特に子供に日之影の自然や環境の良さを知ってもらいたいと思っています。



今月のおかげさま



おかげさまで、5歳になりました。姉は一花、弟は優次郎といます。ケンカもするけど、なにをするときも一緒です。仲良し3人兄弟です。
隙多郎(5さい)



おかげさまで、日之影。

発行：日之影町〒888210402 宮崎県西臼杵郡日之影町大字若井川3399番地1 / ☎098218713900(代表)企画・株式会社オズマビジュアル 編集：菅原良美(雛形編集部) —アートディレクション&写真：小坂橋基希(akaoni) / デザイン：難波知子(akaoni) / 取材・文・空豆みきお(akaoni) | 禁・無断転載 | @hinagata. All Rights Reserved.